

令和7年度香川大学大学院地域マネジメント研究科 —地域の中小企業と経済活性化—

■講座概要

回	日 程	講 師	講 義 概 要
第1回	10月7日(火)	公益財団法人かがわ産業支援財団 理事長 近藤 清志	地域活性化の政策と実践
第2回	10月21日(火)	株式会社菅組 代表取締役社長 菅 徹夫	今、建築に何が可能か？
第3回	10月28日(火)	株式会社中武商店 代表取締役社長 中武 義景	伝統食品は面白い。新しい風を求めての軌跡
第4回	11月4日(火)	株式会社メデュアクト 代表取締役／ 東京薬科大学薬学部 客員准教授／ 株式会社四国水族館開発 前代表取締役 流石 学	地方にゼロから価値を生む —四国水族館の構想から開業まで—
第5回	11月11日(火)	一般社団法人希少糖普及協会 代表理事会長 早川 茂	希少糖の産学官連携事業から商業展開への道のり
第6回	11月18日(火)	ユニコム株式会社 代表取締役社長 藤原 康雄	人を大切にする経営 人生の素晴らしさを分かち合える経営を目指して
第7回	11月25日(火)	白川農場株式会社 代表取締役 白川 大輔 専務取締役 白川 洋子	香川県産にんにくの6次化農業を目指して
第8回	12月2日(火)	株式会社岡モータース 代表取締役／ 株式会社キャンピングカークルー 代表取締役 岡 宏治	急成長を続けるキャンピングカー業界における、 岡モータースの強み
第9回	12月9日(火)	株式会社ハイレゾ 代表取締役 志倉 喜幸	地方補助金とベンチャーステージの因果関係
第10回	12月16日(火)	奈良電機重工株式会社 代表取締役社長 奈良 俊介	成長フェーズで変わる経営課題と実践の軌跡 —地味な努力を続けていく大切さ—
第11回	12月23日(火)	株式会社万葉社 代表取締役 佐々木 良	10万円で起業した会社は、広告費0円で どのようにして、売上2億円を達成したのか
第12回	1月13日(火)	株式会社中田養蜂 代表取締役社長 田中 祐	地域と関わり共に生きる企業 ～地域活動はボランティアではない～
第13回	1月20日(火)	一光電機株式会社 代表取締役会長 池田 晃	会社経営は未知との遭遇 ～波乱万丈も心構え次第～
第14回	1月27日(火)	株式会社 Japan Fruits 代表取締役 高尾 明香里	地域の宝を見つけ、地域を代表する事業へ成長 させる
第15回	2月3日(火)	株式会社旺建 代表取締役 安守 直敏	香川ヒノキの根株の香り（精油）が人の睡眠に もたらす効果について

※ 詳細な講義概要及び講師紹介は各ページをご覧ください。

【第1回】講義概要紹介 10月7日(火)

■ 講師

【略歴】

昭和 36 年	善通寺市出身
昭和 59 年	早稲田大学政治経済学部卒業 香川県採用
平成 19 年	(財)かがわ産業支援財団へ派遣
平成 24 年	商工労働部企業立地推進課長
平成 28 年	商工労働部次長
令和 2 年	商工労働部長
令和 4 年	(公財)かがわ産業支援財団理事長

【講師紹介】

県職員として、観光振興、大規模土地開発、情報政策などの各分野で経験を積んだ後、平成 19 年度以降は一貫して産業振興部門を担当し、主に企業立地支援に取り組んだ。商工労働部長として、令和 3 年には番の州臨海工業団地を分譲開始以来約 50 年ぶりに完売させたほか、民有地を利用した企業誘致で成果を上げたため、経済人の一部からは「県庁の不動産部長」と冷やかされていた。

令和 4 年 4 月に(公財)かがわ産業支援財団理事長に就任。これまでの行政経験を活かし、企業や事業者の多様なニーズに対応するためのきめ細かな支援に力を入れている。中小企業が持つ“無限の可能性”をパートナーとしてサポートし、一緒に地域を元気にすることを目指している。



近藤 清志

(こんどう きよし)

公益財団法人かがわ産業支援財団
理事長



【公益財団かがわ産業支援財団について】

県内企業の総合的な支援機関として、新産業の創出、地域企業の経営基盤の強化、産業技術の高度化、科学技術の振興などに取り組んでいます。

■ 講義概要

地域活性化の政策と実践

公益財団法人かがわ産業支援財団の

- 活動概要と役割
 - 支援施策
 - 県内企業への支援事例
- 等について講義します。



【第2回】講義概要紹介 10月21日(火)

■ 講師

【略歴】

昭和 36 年	三豊市仁尾町出身
昭和 58 年	神戸大学工学部建築学科 卒業
昭和 60 年	神戸大学大学院工学研究科(建築学専攻) 修士課程修了(西洋建築史専攻)
昭和 60 年	(株)藤木工務店 入社 (東京支店設計部勤務)
平成 2 年	(株)菅組 入社
平成 20 年	同社代表取締役社長に就任

【講師紹介】

仕事の傍ら「バーハ小屋研究会」を立ち上げるなど、地域資源の発掘などのユニークな活動も行う。2001 年「近くの山の木で家をつくる運動」に賛同、地域グループ「讃岐の舍づくり倶楽部」を立ち上げ国産材・地域材の利用促進に動く。

現在も香川県産材の利用促進に積極的に取り組む。

一級建築士、ビオトープ管理士

趣味はスキー、ビオトープ、バーハ小屋探索、出水探索、集落への旅、建築巡り、植樹などイタリア好き

尊敬する経営者：イヴォン・シュイナード

好きな音楽：ボブ・ディラン、あいみょん



菅 徹夫
(すが てつお)

株式会社菅組
代表取締役社長



【株式会社菅組について】

私たち菅組は、明治 42 年の創業以来、建造物を通して人々の暮らしを見つめてきました。それぞれの時代に、人々が望んでいる価値ある建造物を提供。企画力、技術力、独創性を発揮して、その実績を積み重ねてきたのです。そのベースにあるのは「地域で愛される総合建設会社」でありたいという思いです。具体的には病院/社屋/工場/店舗/学校/文化施設/商業施設/社会福祉施設/社寺/住宅/リフォーム/古民家改修など、さまざまな建築を通してまちづくりに貢献してきました。今後も図面の向こう側にある、人と暮らしと社会を見つめながら、技術と企画力を備えた総合建設会社として地域に密着した活動を続けていきたいと思っています。

■ 講義概要

今、建築に何が可能か？



建築をつくる集団として、今私たちに求められていることは何なのか？建築業界や社会を取り巻く状況から私たちの向かうべき方向性を模索してきています。そんななかで、ここ数年取り組んできた新たな試みやこれから向かっていきたい方向性などをご紹介できればと考えています。必ずしも成功している、成果の出ている取り組みばかりではありませんが、今後も「建築に出来ること」を探し求めて行きたいと思っています。

【第3回】講義概要紹介 10月28日(火)

■ 講師

【略歴】

1953 年	小豆島町（旧内海町）出身 日本大学経済学部卒業後、 同町の食品製造会社勤務を経て
1983 年	株式会社 中武商店に入社
1994 年	同社代表取締役社長に就任

【講師紹介】

転勤族の家族として小中高で8回の転校を経験、高校2年の時に先代が手延べ素麺製造業を起業。伝統食品に新しい風をとの志をもって同社に入社、何度かの転換点を経て現在の業態に至る。

経営方針として、一貫して独自性を重視し、オリーブ素麺、生素麺等の従来にない製品を業界に先駆けて開発している。

1994 年、手延べ素麺製造技能士認定。

業界の評価向上には社会貢献が必要との思いで、製麺技術研究会、商工会、青年会議所、小豆島オリーブ協会、人権擁護委員等の活動も積極的に行っている。



中武 義景
(なかぶ よしかげ)

株式会社中武商店
代表取締役社長

【株式会社中武商店について】

1970 年 手延べ素麺製造業を小豆島町に創業
1971 年 株式会社中武商店を設立し、伝統の小豆島手延べ素麺を製造開始
贈答品販路を拡大し、卸売業にも進出
1990 年 オリーブ素麺を発売
1996 年 生そうめんを新開発し販売開始
オリーブ素麺の原料の安定供給確保のため、特区制度によりオリーブ栽培を開始
2005 年 産業観光を取り入れたそうめん体験施設と飲食専門店「なかぶ庵」を整備拡充し開店
2018 年 体験参加者累計2万人、
2019 年 来店者数累計20万人達成
2020 年にも生シリーズの生手延べうどんを開発しています。

■ 講義概要

「伝統食品は面白い。新しい風を求めての軌跡」

意外と知られていない手延べ素麺の概要と430年に及ぶ歴史と現状、将来を現場サイトからの考察を行い、さらに当社の独自性を重視したこれまでの取り組みの軌跡を具体的に紹介することにより、伝統食品に携わる面白さ、悩み、将来の希望につながる、望まれる支援などについて、講義したいと思います。



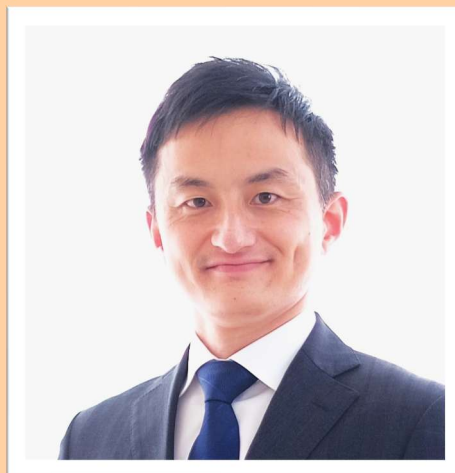
【第4回】講義概要紹介 11 月4日(火)

■ 講師

【略歴 講師紹介】

大手製薬会社、医療コンサルティング会社を経て、2013 年に病院、地域ビジネスのコンサルタントとして独立。地域医療関連のプロジェクトやまちづくり NPO の立ち上げ・運営に携わる。14 年、医療機関の経営支援を行う(株)メデュアクトを設立。医療機関の戦略・戦術立案、薬剤部門のマネジメント支援等を得意として、多くの医療機関の経営支援を行っている。20 年には四国水族館を開業して初代社長を務める。

1978 年生まれ、山梨県出身。



流石 学

(さすが まなぶ)

株式会社メデュアクト
東京薬科大学薬学部
株式会社四国水族館開発

代表取締役
客員准教授
前代表取締役

■ 講義概要

地方にゼロから価値を生む ー四国水族館の構想から開業までー

本講義では、香川県宇多津町にてゼロから水族館を立ち上げたプロセスを題材に、事業構想、資金調達、地域・行政との連携、運営体制の設計まで、構想段階から開業に至るまでの実践知を学ぶ。アントレプレナーシップの視点から、困難を乗り越え地域に新たな価値を創出したプロジェクト型起業のリアルを多角的に解説する。

【第5回】講義概要紹介 11月11日(火)

■ 講師

【略歴】

昭和 52 年	名古屋大学農学研究科博士課程修了
昭和 54 年	名古屋大学農学部助手
平成 3 年	香川大学農学部教授
平成 21 年	香川大学農学部長
平成 25 年	香川大学理事・副学長
平成 27 年	香川大学名誉教授・特命教授
令和 2 年	一般社団法人希少糖普及協会代表理事会長

【講師紹介】

希少糖を用いた食品開発研究に 20 年以上にわたって取り組み、産学官連携事業において民間企業における希少糖活用の支援を行ってきた。

また、国際希少糖学会の事務局長として希少糖の世界への発信や希少糖研究者の育成に努めた。現在は(一社)希少糖普及協会の代表理事会長として希少糖の国内外に向けての普及活動を行っている。



早川 茂

(はやかわ しげる)

**一般社団法人希少糖普及協会
代表理事会長**

【一般社団法人希少糖普及協会について】

希少糖の利用を普及、発展させることによって、会員の事業発展に資するとともに、希少糖関連技術の進歩および人類の健康と社会の発展に寄与することを目的として、情報発信や研究支援、利用技術の向上に貢献する活動を行っています。

■ 講義概要

希少糖の産学官連携事業から商業展開への道のり

自然界に微量しかない単糖である希少糖を生産する酵素を土壌中の微生物から単離し、希少糖の大量生産を目指す産学官連携事業が、香川大学を中心にして 20 数年前に香川県で立ち上がった。

研究開発と事業化は困難の連続であったが、「知的クラスター創成事業」や「都市エリア事業」などいくつかの産学官連携事業を通して、アルロースの大量生産が可能となり、民間企業での活用が始められた。



平成 13 年に設立した国際希少糖学会では、香川県において国際シンポジウムを開催し、希少糖研究者の育成ならびに香川県民や企業への希少糖の広報活動を行ってきた。このように産学官連携事業により、アルロースの商品利用価値の科学的根拠を明らかにするとともに、アルロース等を利用した商品開発がなされてきている。産学官連携での希少糖の事業化について、商業展開を中心として講義を進めます。

【第6回】講義概要紹介 11月18日(火)

■ 講師

【略歴】

昭和 51 年	神戸市出身
平成 9 年	国立明石工業高等専門学校 卒業
	建築設計事務所、自動車関連会社勤務
平成 28 年	ユニコム株式会社 入社
令和 3 年	同社代表取締役社長に就任

【講師紹介】

父の影響を受け建築設計士を志す。設計事務所に入社後、建設不況により、リストラを経験。その後、自動車関連会社にて営業職の魅力に目覚め、同社にて経営の後継者を志す。結婚を期に、養子となり、妻の実家の家業である同社の後継者として入社。

稲盛和夫さんの盛和塾、致知出版社の藤尾社長、人を大切にする経営学会の坂本光司先生から経営の在り方を学び、現在に至ります。



藤原 康雄

(ふじわら やすお)

ユニコム株式会社
代表取締役社長

【ユニコム株式会社について】

弊社は、昭和 56 年に創業し、今年で 45 周年を迎えます。

油圧装置のメンテナンスより起業、現在では大型装置の計画段階から参画し、設計・製作・据付・メンテナンスと一貫対応出来る油圧専門メーカーへと成長させていただきました。これからも「油圧の力で未来をつくる」を掲げ、さらなる「いい会社」を目指し、成長してまいります。

【主な事業内容】

- ・油圧ユニットの設計製作 ・ マニホールドブロック設計製作
- ・油圧機器及び付属機器の販売
- ・高圧ホース、継手 製作販売
- ・油圧装置の改善、改造工事及びメンテナンス
- ・油圧機器の分解整備
- ・油圧装置の据付工事及び油圧配管工事

■ 講義概要

人を大切にする経営
人生の素晴らしさを分かち合える経営を目指して



- ・ 事業概要
- ・ 自身の半生を振り返って
- ・ 人を大切にする経営へのシフト
- ・ 現在の我が社の取り組みについて
- ・ 油圧総合メーカーを目指して

【第7回】講義概要紹介 11月25日(火)

【略歴】

平成 18 年	結婚・会社設立
平成 20 年	にんにく栽培開始
平成 21 年	黒にんにく製造開始
平成 29 年	にんにく栽培一本化

【講師紹介】

結婚を機に会社を設立し、農業未経験からのスタートでした。

設立当初は米・ブロッコリー・たまねぎを栽培し、当時は JA への出荷が主流。

しかしその過程で多くの疑問が生まれ、より自由で価値ある農業を追求することを決意。

現在は、この土地の風土に適した香川県産にんにくを栽培し、自らが美味しいと思うにんにく加工品を開発。にんにくの魅力を全国へ発信し続けるにんにく専門農家として歩んでいます。



白川 大輔

(しらかわ だいすけ)

白川農場株式会社 代表取締役

白川 洋子

(しらかわ ようこ)

白川農場株式会社 専務取締役

【白川農場株式会社について】

「家族が安心して食べられる美味しい野菜や米を作りたい」という想いが、私たちの農業の原点です。平成 18 年、家族の協力を得て農業生産法人を設立。以来、にんにく専門農家として、この風土に適した香川県産にんにくの栽培から加工・販売までを一貫して手掛けています。地域の恵みを活かし、豊かな香りと味わいを持つにんにくをお届けし、次世代へつなぐ農業を続けています。

■ 講義概要

香川県産にんにくの6次化農業を目指して

- 自社のこれまでの取り組み
- 6次産業化の取り組み
- これまでの課題
- これからの展望

についてお話ししたいと思います。



【第8回】講義概要紹介 12月2日(火)

■ 講師

【略歴】

昭和 39 年	香川県高松市出身
昭和 62 年	松山大学 卒業
昭和 62 年	トヨタカローラ香川(株) 入社
平成 元年	(株)岡モータース 入社
平成 10 年	同社代表取締役社長に就任

【講師紹介】

実父が創業した自動車販売店(株)岡モータースの新規事業として、「キャンピングカー部門」を平成 16 年に新設。

平成 23 年にはオリジナル軽キャンパーを開発・発売し、全国で販売店網を構築した。自身も CAD を使って設計を行い、「快適なクルマ旅」の実現に、創意工夫を凝らす。

現在は一般社団法人日本 RV 協会の理事として、キャンピングカーの普及にも努めている。



岡 宏治

(おか こうじ)

株式会社岡モータース 代表取締役
株式会社キャンピングカークルー 代表取締役

グランクルーズ



ミニチュアクルーズ

【株式会社岡モータースについて】

30 ブランド以上のキャンピングカーを取扱い、本社展示場には常時 70 台以上の展示車を用意し、国内屈指のキャンピングカーディーラーとして認知されています。

平成 23 年から製造・販売する軽キャンパー「ミニチュア」シリーズは、全国で 1700 台以上を販売し、ベストセラーモデルの地位を確立しています。令和 5 年にはイタリアの商用車「フィアットデュカト」をベース車にした高級キャンピングカー「グランクルーズWD」を発売し、富裕層向けの車種の製造・販売にも進出しました。

■ 講義概要

急成長を続けるキャンピングカー業界における、 岡モータースの強み

1. 自動車販売店からキャンピングカービルダーへ転換した歴史
2. 常時 70 台以上、国内屈指の規模を誇るキャンピングカー展示場
3. オリジナルキャンピングカーを自力で開発
4. 外国人エンジニアを積極採用
5. オーナー招待のキャンプ大会には 158 台が参加
6. キャンピングカーを通じて地域貢献
7. 行政と災害発生時の車両貸出に関する協定を締結



【第9回】講義概要紹介 12月9日(火)

■ 講師

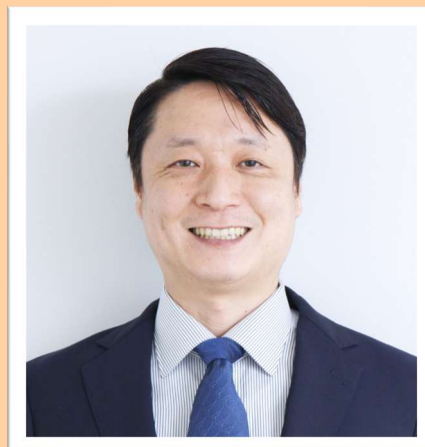
【略歴及び講師紹介】

1982 年 横浜市生まれ

学生起業家としてモバイルゲーム開発事業を立ち上げる。その後、GPU の可能性に着目し、約 18 年にわたり並列処理技術を応用した開発・運用に携わる。

2007 年 株式会社ハイレゾを設立

AI 向け GPU クラウドサービスおよび GPU データセンター構築を推進し、格安の学習用 GPU クラウドを武器に、国内外の AI 研究・産業利用を支援。さらに、地方創生と産業競争力強化を両立する「地域型データセンター戦略」を展開している。経済産業省認定の国家プロジェクト（総額 210 億円、うち補助金 77 億円）を主導し、香川県や鹿児島県などの自治体と連携しながら、日本の AI インフラ整備に尽力している。



志倉 喜幸
(しくら よしゆき)

株式会社ハイレゾ
代表取締役

【株式会社ハイレゾについて】

株式会社ハイレゾは、AI 向け GPU クラウドサービスの提供と GPU データセンター構築を推進する企業です。低コストで高性能な GPU クラウドを通じて、研究機関や産業界の AI 活用を幅広く支援しています。

また、廃校などの地域資源を活用した地域分散型データセンターを展開。自治体との協働により地方創生と持続可能な AI インフラ整備を両立する新しいモデルを実現しています。

■ 講義概要

地方補助金とベンチャーステージの因果関係

- 市区町村・県・国、それぞれの補助金制度と、ベンチャー企業におけるシード・アーリー・レイターといった各ステージとの関連性
- 実際に「ハイレゾ」の補助金取得事例をもとに、その因果関係を具体的に検証
- 現状の日本のベンチャー企業が地方に進出し、成功を収めた事例を紹介



【第 10 回】講義概要紹介 12 月 16 日(火)

■ 講師

【略歴】

昭和 57 年	高松市出身
平成 19 年	香川大学大学院 卒業
平成 19 年	奈良電機重工株式会社 入社
平成 28 年	同社代表取締役社長に就任

【講師紹介】

大学では画像情報によるロボット制御の研究を行い、国内外における学会発表は30回以上、学会誌への掲載論文は3本と研究に没頭しました。

大学院を卒業後、家業を継ぐために入社し、電気工事の下手間作業から始まり、FA 設備の電気・制御設計、営業活動と会社に関わる全ての業務を経験して社長として会社を引き継ぎました。

京セラの創業者である稲盛和夫氏の経営哲学を学び、従業員を含め弊社に関わる全ての人に幸せになってもらうために、その学びを実践しています。



奈良 俊介

(なら しゅんすけ)

奈良電機重工株式会社
代表取締役社長

【奈良電機重工株式会社について】

1946 年に香川県の飯山町で祖父が創業し来年で 80 年を迎えます。

当初は家庭用の電気配線工事から始まりましたが、現在は四国電力の設備保守や、全国の様々な工場の自動生産設備の制御設計から制御盤製作、電気工事まで一貫して対応できる体制を強みとして全国様々なお客様より頼りにされております。

「全従業員の物心両面の幸せを追求するとともに、企業の成長を通じてより広い社会に貢献する」という経営理念のもと、仕事に対する考え方を重視した従業員教育を行っており、そのような従業員の姿勢を認められ最近では国内大手企業様より表彰をいただけるような活躍をしています。

■ 講義概要

成長フェーズで変わる経営課題と実践の軌跡 —地味な努力を続けていく大切さ—



この講義では、奈良電機重工が売上 2 億円・従業員 20 名から、売上 10 億円・従業員 50 名へと成長する過程において、どのようなことを実践したかを説明させていただきます。

組織規模の拡大に伴い変化する戦略、人材育成、組織づくりの実践事例を通じて、成長を持続させるための経営を考えます。

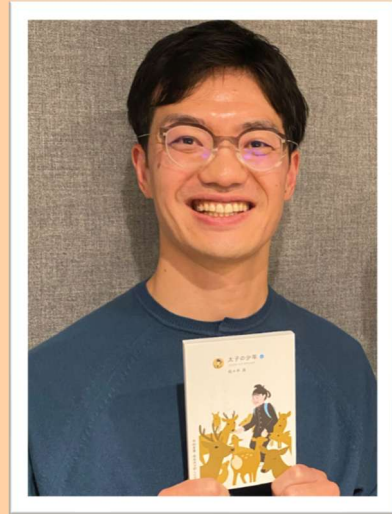
【第 11 回】講義概要紹介 12 月 23 日(火)

■ 講師

【略歴及び講師紹介】

1984 年	生まれ 京都精華大学 芸術学部にて、油絵を専攻 大学卒業後は、地中美術館、豊島美術館などに従事し、京都現代美術館の学芸員として勤務
2018 年	『美術館ができるまで』で作家デビュー
2020 年	コロナ給付金 10 万円を元手に「株式会社万葉社」を設立
2022 年	令和言葉・奈良弁で訳した万葉集シリーズの第一弾となる『愛するよりも愛されたい』を刊行。2023 年の売上年間 1 位を獲得(honto 調べ)。2025 年の国語教科書の副教材「国語便覧」に掲載 以降、『太子の少年』『式部だきしめて』『愛のかまたり』を合わせて、シリーズ累計 27 万部を突破
2025 年	大阪・関西万博で万葉集のイベントを開催

◆ テレビ出演
「クローズアップ現代」「news zero」「おはよう日本」「Mr.サンデー」「Nスタ」「激レアさんを連れてきた。」など



佐々木 良
(ささき りょう)

株式会社万葉社
代表取締役

【株式会社万葉社について】

- ・高松市に本社を置くひとり出版社。
- ・2020 年、国の特別定額給付金(コロナ給付金)10 万円を元手に、納税 1 億円を目指して設立。
- ・2022 年に出版した万葉集の現代語訳『愛するよりも愛されたい』などの令和言葉・奈良弁で訳した万葉集シリーズは、シリーズ累計 27 万部突破。
- ・2025 年に刊行したパラオの日本語を紹介した書籍『ツカレナオース!』も、テレビ・新聞で話題となりベストセラーに。
- ・現在も執筆活動を行いながら、全国の若者の創業支援も行なっている。

■ 講義概要

10 万円で起業した会社は、広告費 0 円でどのようにして、
売上 2 億円を達成したのか



2020 年、国から頂いた特別定額給付金(コロナ給付金)10 万円を元手に株式会社万葉社を起業した。この 10 万円は国から頂いた税金であることから、コロナ禍が終わった後には、国に納税として返すことが本質だと考えた。そこで会社として掲げた目標は、売上や利益ではなく、納税 1 億円だった。現在の売上は、2 億円を超えて、目標の 1 億円納税も見えてきた。広告費 0 円でどのようにして、売上 2 億円になったのか。どのように社会を巻き込んでいったのか。若い起業家へのヒントになればと考えている。

【第 12 回】講義概要紹介 1月 13 日(火)

■ 講師

【略歴】

昭和 58 年	埼玉県さいたま市出身
平成 19 年	獨協大学外国語学部ドイツ語学科卒業
平成 19 年	(株) そごう・西武 そごう大宮店 入社
平成 24 年	香川県へ移住、中田養蜂に就農
令和 2 年	(株) 中田養蜂代表取締役社長に就任

【講師紹介】

ドイツ語を大学で学び、ドイツの芸術や文化を一般に広めるために百貨店へ入社。見事に全く関係のない食品課に配属され物産展やギフトセンターを担当。この勤務時代にたくさんの中小企業の経営者の方に育てていただく。そんな皆様から伝えられた生産者であることの魅力を自らも実践するため、百貨店を退職、妻の実家である養蜂場を継ぐために香川県に移住し就農。今度は生産者、経営者の魅力をお伝えする立場として日々たくさんの方々と関わる。



田中 祐

(たなか ゆう)

株式会社中田養蜂
代表取締役社長

【株式会社中田養蜂について】

昭和 37 年に初代が養蜂業を開業してから今年で 88 年。3 代にわたり高松市五色台でミツバチを飼育して養蜂業を営む。

はちみつを生産や販売だけでなく、花粉交配用の蜜蜂の生産を行い県内様々な農産物の生産を下支えする。

直売所を運営する中で様々な地域団体や農家仲間、クリエイターと協働し地域活動や食育、啓発活動にも力を入れている。

■ 講義概要

地域と関わり共に生きる企業 ～地域活動はボランティアではない～



養蜂業がどのような産業で、私たちの社会の中でどのような役割を果たしているのか、弊社の事業の大きな 3 つの柱を通してお話いたします。

会社の経営が自然や地域社会とかわりあうことで存在していること、たくさんの人と協働することの魅力や楽しさをお伝えしたいと思います。

【第 13 回】講義概要紹介 1月 20 日(火)

■ 講師

【略歴】

昭和 30 年	兵庫県明石市出身
昭和 52 年	愛媛大学 工学部機械工学科 卒業
昭和 54 年	岡山大学 工学部電子工学科 卒業
昭和 54 年	ソニー（株）入社 ビデオ関連の商品開発に従事 生産技術開発に従事
平成 18 年	一光電機株式会社代表取締役社長に就任
令和 6 年	一光電機株式会社代表取締役会長に就任

【一光電機株式会社の沿革】

昭和 36 年	高松市天神前にて電気機器の代理店として創業
昭和 39 年	高松市楠上町に本社移転
昭和 41 年	高松市多肥下町に多肥工場建設
昭和 43 年	本社を同工場内に移転
平成 4 年	香川郡香南町に塗装工場（Besco）を新設
平成 9 年	香川郡香南町に本社・工場移転
令和 5 年	高松市香南町に第二工場新設



池田 晃
(いけだ あきら)

一光電機株式会社
代表取締役会長

【一光電機株式会社について】

- キュービクル式高圧受電設備、配電盤、分電盤、動力盤など各種配電盤の設計・製作
- バイオマスプラントなど各種プラント設備の制御システムの設計・製作
- 太陽光発電など各種発電設備の遠隔監視装置の設計・製作
- 模擬遮断機など、特殊シミュレーターの設計・製作
- 耐震盤など、特殊用途の筐体の設計・製作
- 産業用太陽光発電の配電盤システムの設計・製作

■ 講義概要

会社経営は未知との遭遇 ～波乱万丈も心構え次第～

技術者出身で経営の経験がなかった講演者が 37 歳で社長になり、30 余年にわたって経営者として学んだ事を、お話ししたいと思います。

本社



第二工場



【第 14 回】講義概要紹介 1月 27 日(火)

■ 講師

【略歴】

平成 30 年	香川大学教育学部 卒業
令和 元年	株式会社 Rise UP 退職
令和 3 年	株式会社 Japan Fruits 創業
令和 6 年	株式会社 Zen 創業

【講師及び株式会社 JAPAN FRUITS 紹介】

作る人も、食べる人も、幸せな流通を創ることをビジョンに経営を行っています。

日本のフルーツは世界一美味しいです。

しかし、それを生産する農家では赤字及び過剰労働が続いています。

大学生の時に、香川県フルーツ大使をさせて頂き、農家さんの育てたフルーツを販売した経験を通して、知りました。

生産者が儲かり、食べる人も喜ぶ世界にする為、自社独自の農園直送 BtoB 受発注システムを開発し、今まで破棄されていた「規格外のフルーツ」をはじめとしたフルーツ全般をケーキ店やコンビニエンスストアなど約 2000 社へ安定供給しています。



高尾 明香里

(たかお あかり)

株式会社 Japan Fruits
代表取締役



■ 講義概要

地域の宝を見つけ、地域を代表する事業へ成長させる

Result

2024年度 卸先企業数

1,000社

JFに卸先を変更した農家の追加年収

約5000万円

JFに仕入先に変更した事業者の仕入れコスト削減率

約15%



縁もゆかりもない産業から、どうやって事業を創り成長させていったかについてお話しします。

- ・フルーツの卸売事業
- ・旅館業

【第 15 回】講義概要紹介 2月3日(火)

■ 講師

【略歴】

昭和 62 年	香川大学卒業
昭和 62 年	日本勧業角丸証券（現みずほ証券） 入社
平成 14 年	株式会社旺建を創業 同社代表取締役役に就任

【講師紹介】

香川大学で経済を学び証券会社に入社しましたが、転勤（高松から大阪）の辞令のタイミングで退職し、建築デザインの資格取得しながら実務を学び独立。五年前から香川ヒノキの研究を始めて眠りのエビデンスがでたタイミングで「hinoki/ kagawa」を眠りの香りとしてブランド展開している。



安守 直敏
(やすもり なおとし)

株式会社旺建
代表取締役

【株式会社旺建について】

平成 14 年に高松市で旺建を創業し、デザイン性とスペックの高い住宅やクリニックなどを設計施工している。

インテリアや家具を販売する COCO SPACE（ココスペース）やデザイン性の高い焼肉屋 AGORA（アゴラ）、ドッグラン併設のカフェ agorette（アゴレット）なども経営している。

5 年前から始めた香川ヒノキの根株の研究は日経新聞全国版などに取り上げられている。（旺建 日経新聞で検索）

香川県とは香川ヒノキのブランド化の二社協定締結済み、九州大学とは共同研究契約締結し、エビデンスを論文化し学術雑誌にも掲載されている。

■ 講義概要

香川ヒノキの根株の香り（精油）が人の睡眠にもたらす効果について



森林従事者の労働環境は厳しいわりに七割が日雇いである現状。雨の日にはお金を稼げない。ここ 30 年で香川県では現場の作業者は 300 人から 100 人にまで減少している。彼らを月給制とするためには香川ヒノキを建材としてブランド化すること、森林の未利用材を高く買い取り、それを高付加価値商品に変えるの二つの方法しかないと考えた。

雨が日本一少ない香川県のヒノキは香りがいい。その香りの良さをヒト試験にて実証することができて、今、香川ヒノキは全国的にフォーカスされている。なぜ、森林に興味を持ったか？なぜ、森林の現状を知らせないのか？

「hinoki/ kagawa」を展開する目的は日本の森林の価値観に変革を起こすことです。